

大山火山の噴火に伴う降下火砕物の層厚評価の見直しに係る補正概要

【設計層厚の見直し】

- ・文献調査、地質調査、降下火砕物シミュレーション(Tephra2)及び越畑地点のDNP評価層厚と距離の関係(大山火山から越畑地点及び各発電所までの距離)をもとにした検討結果から、発電所運用期間中における敷地の降下火砕物の層厚を再設定した。
- ・再設定した降下火砕物の層厚に対して、発電所の建屋や設備が降下火砕物の重量に耐えられること、建屋内の機器の吸気や排気に影響がないことを確認。

〔降下火砕物※の最大層厚〕

発電所	現在の設置変更許可		今回の補正申請	
	噴出規模	層厚	噴出規模	層厚
美浜発電所	5km ³	10cm	11.0km ³ (当初申請より変更なし)	22cm (当初申請:15cm)
高浜発電所				27cm (当初申請:25cm)
大飯発電所				25cm (当初申請:22cm)

※火山が噴火した際に噴出する火山灰や火砕流など

〔越畑地点のDNP評価層厚と各発電所までの距離をもとにした層厚の検討結果〕

(算定式)

審査会合を踏まえ、2018年12月12日に、原子力規制委員会から発出された報告徴取命令で示された越畑地点(京都市)における火山灰の層厚(25cm)を基に、大山火山から越畑地点及び各発電所までの距離から算定

< $\text{各発電所の層厚} = (\text{大山} \sim \text{越畑間距離} / \text{大山} \sim \text{発電所間距離}) \times 25\text{cm}$ >



発電所	高 浜	大 飯	美 浜
大山からの距離	179.2km	192.8km	222.9km
算定式から求めた層厚	26.6cm	24.8cm	21.4cm

【燃料取替用水タンク等の屋根板の溶接補強】

- ・既に実施済みの燃料取替用水タンク等の屋根板の溶接補強に伴う工事計画等の追加。

〔対 象〕

- ・高浜発電所1、2号機 燃料取替用水タンク(2019年6月に工事実施済み)
- ・高浜発電所3、4号機 復水タンク (3号機は2020年2月、4号機は2019年10月に工事実施済み)
- ・美浜発電所3号機 燃料取替用水タンク(2019年6月に工事実施済み)